

## 第七回企業活性化研究分科会・議事録

<第七回 2008年1月26日(土) 時間：13：30～16：30 於：専修大学(神田校舎)>

1. 参加者：太田、山本、井端、大野、古山、渡邊、大柳、横山、星野、菅原、宮川

2. テーマ：企業活性化に関する研究

3. 発表内容

テーマ：『内部統制制度と上場会社評価』

- ・報告者：井端和男
- ・配布資料：レジュメ2枚
- ・報告内容の要旨

現在までに起きている不適切会計処理をした会社を対象に、内部統制の整備状況及び上場会社の評価方法について報告された。

主な見解は、次のとおりである。上場会社においても与信管理は必要である。しかし、監査の厳格化により与信管理が必要な上場会社を判別し、絞り込むことが可能である。判別基準としては、自己資本比率、売上高経常利益率、総資産回転期間等の指標を用いることを提案された。

最後に、上記にあげた判別基準を用い、平成19年9月以降の倒産会社を対象に事例分析の説明をした。

- 監査法人または監査人の質について
- 上場会社の与信管理問題について
- 判別分析の判別基準と分析結果について
- 企業倫理や企業風土について
- 内部統制の整備状況と今後について
- 海外事業や海外子会社などのリスクの把握について

4. その他

次回の日程

- ・3月29日(土) 専修大学神田校舎 764教室

(文責：菅原智久、宮川宏)